

Exhibition

SICF22 EXHIBITION 部門 グランプリアーティスト展
 チャンジンウェン 「記憶容器」

会期：2022年4月26日（火）-5月1日（日）11:00 -20:00
 会場：スパイラルガーデン（スパイラル 1F）

SICF22 MARKET 部門 グランプリアーティスト展
 岩江圭祐 「USEFUL?」

会期：2022年4月29日（金・祝）-5月8日（日）11:00 -20:00
 会場：エントランス（スパイラル 1F）

アートフェスティバル「SICF22」両部門のグランプリアーティストによる個展

スパイラルは、昨年9月に開催したアートフェスティバル「SICF22（第22回スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル）」のEXHIBITION部門とMARKET部門においてグランプリを受賞したチャンジンウェンと岩江圭祐の個展をスパイラルにて開催します。



チャンジンウェン 《日常》(2020) 530x530mm



岩江圭祐 《SUSAB | soap》出展作品

チャンジンウェンは、和紙に墨や水干、岩絵具といった日本の伝統的な画材と技法を用い、集合住宅や窓などの風景を描くことで、大都市に暮らす現代人の「孤独」や「不安」の感情を表現しています。本展では、旧作1点と台湾と東京の集合住宅をそれぞれ描き対比させた新作2点、計3点の大作と小作品の展示を行ないます。母国である台湾に思いを馳せながら、単身日本に渡り、パンデミック以降、家族や親しい人たちから遠ざけられた作家自身の孤独感、個人的でありながら普遍的な感覚を、来場者と共有します。一方、岩江圭祐は、本体部分が銅や真鍮でできた文字盤のない腕時計や、使いかけの石鹸の形をしたアルミニウムのオブジェなどを制作。一見すると用途がわからないこれらの作品は、経年変化によって使い手とともに刻む特別な時間を可視化したり、それを持つ者の手をそっと慰めてくれます。岩江が生み出す作品たちは、機能的な側面が評価されがちな、ものに対する価値観に疑問を投げかけると同時に、使い手の心を沸き立たせ、日々の生活に喜びを与えてくれます。本展では、用と心をテーマに岩江のこれまでのものづくりを概観、新作を含む作品の展示販売を行ないます。グランプリアーティスト展と同時開催で EXHIBITION 部門は9名、MARKET 部門は4名の受賞者による展示を行ないます。ぜひ掲載のご検討をお願いいたします。

■取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報 ソフィー・ルキャンズ

TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848 〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23

E-mail press@spiral.co.jp URL: <http://www.spiral.co.jp/>

SICF22 EXHIBITION 部門 グランプリアーティスト展 チャンジンウェン「記憶容器」

■ 本展キュレーターコメント

今回は、スパイラルを象徴する吹き抜け空間（アトリウム）に、台湾と東京の集合住宅を描いた新作2点と旧作1点を展示。3点の巨大な絵画は、高さ3mを超え、建物のように屹立する。ひとりとして人物が描かれない景色は寡黙で、寂しさを増幅させるが、窓にはそれぞれの表情があり、そこに暮らす「誰か」の存在におのずと意識が向く。

チャンは、「空間は記憶に満ちた容器」であり、「窓は容器の内と外をつなぐ、人々の感情の出入り口」なのだと言う。特に、台湾から日本に来て感じた孤独や不安などの感情を中心に描いており、今回は帰国できない台湾への思い、コロナ禍で強まった憂いを表現。先の3作品に加え、寂寥感が漂う室内に存在する感情を伝える小作品も展示する。

さらに、スパイラルの持つ文脈にも着目。建物を設計した槇文彦は、都市の「パブリックスペースにおける孤独」をコンセプトとし、ひとりでも豊かな時間を過ごすための空間に挑戦した。チャンはこれに着想を得て、青山通りに面した階段空間（エスプラナード）の窓をモチーフとした新作も発表する。

1坪弱のスペースで発表したSICF22から、160平米の空間へと大きく飛躍する、チャンの挑戦。誰もがこのまででない「孤独」を感じる今だからこそ、是非会場でご覧いただき、失ったものだけでなく、私たちを満たす「記憶」に気づくことを期待している。____ 加藤育子（スパイラル キュレーター）

■ 過去作品



《容器》(2020)
3360x3600mm ※本展にも出展



《日常一午後》(2020)
420x297mm



《空き器一夜》(2020)
420x297mm



《夜》(2021)
910x910mm



チャンジンウェン 張静雯 | Ching Wen CHANG

1979年台湾生まれ。現在、多摩美術大学大学院美術研究科博士後期課程在籍。和紙に墨や水干、岩絵具などを用いて、東京や台湾の集合住宅や窓を描くことで、現代人の「孤独」や「不安」などの感情を表現している。

主な受賞歴に、「SICF22 EXHIBITION 部門」グランプリ（2021）、「台南新芸奨」（2020）、「第37回上野の森美術館大賞展」入選（2019）、「第54回神奈川県美術展平面立体部門」準大賞（2018）など。主な展覧会に「都美セレクショングループ展 2020 東アジア絵画のなかへトランスする『日本画』の可能性」（2020、東京都美術館／東京）などがある。

Photo：簡蒙江

SICF22 MARKET 部門 グランプリアーティスト展 岩江圭祐 「USEFUL?」

▪ アーティストステートメント

“なんかいい”という感覚は、大抵うまく説明ができない。

私の幼少期からのお気に入りにはプラレールよりトミカ、ソフビ人形より超合金ロボットでした。

それは車や機械が好きだったからではなく、金属という素材のひんやりと冷たい無機質さや、おもちゃというには手に余る重量感など、私にとって必ずしも都合の良いことだけではないモノの在り方に心惹かれていたのかもしれない。

それらは物としての実用性を超えて、心に訴える何かがあったのだと思います。

本展は「用と心」をテーマに、物と人の関係性への思考の巡りから自らへの問いや気づきを発見するプロセスです。____ 岩江圭祐

▪ SICF22 審査員コメント

物理的に役に立つものばかりが便利で、必要なものという訳では無いという作者の強いメッセージを感じました。

そして実際に、気持ちに寄り添って存在するようなたたずまいに心惹かれたのでした。

明確な用途が無いようであるような、あるようで無いような。それでいてプロダクトとしてちゃんと成立しているのはパッケージも手を抜かずに提示されているなど、難しいメッセージを伝えようとする真摯な姿勢があったからではないかと思えます。用と心のバランスが絶妙な塩梅で成立した仕事を高く評価しました。____ 鈴木マサル（テキスタイルデザイナー）

▪ 出展作品



《SUSAB | game》



《Aging Watch》



《1 のサイコロ》

岩江圭祐 | Keisuke IWAE

1987年東京都生まれ。多摩美術大学工芸学科博士前期課程修了。

2015年より金属作家としての活動をスタートし、東京を中心に個展や企画展で作品を発表。

人間の行動原理や記憶にまつわるノスタルジックな感情から着想を得て作品を制作。用途ばかりにとらわれない、美しくもちょっと可笑しな存在として使い手に寄り添う「要具」を制作する。

主な受賞歴に「SICF22 MARKET 部門」 グランプリ（2021）。現在は、アートワークやプロダクトデザインに加え、オリジナルの金具や什器の制作など様々な分野で活動している。

開催概要

SICF22 EXHIBITION 部門 グランプリアーティスト展 チャンジンウェン 「記憶容器」

会期：2022年4月26日（火）－5月1日（日）11:00-20:00

会場：スパイラルガーデン（スパイラル 1F）東京都港区南青山 5-6-23

URL：https://www.spiral.co.jp/topics/spiral-garden/SICF22_jushosha-EXHIBITION

入場無料

SICF22 MARKET 部門 グランプリアーティスト展 岩江圭祐 「USEFUL?」

会期：2022年4月29日（金・祝）－5月8日（日）11:00-20:00

会場：エントランス（スパイラル 1F）東京都港区南青山 5-6-23

URL：https://www.spiral.co.jp/topics/entrance/SICF22_jushosha-MARKET

入場無料

お問い合わせ：03-3498-1171(スパイラル)

主催：株式会社ワコールアートセンター

企画制作：スパイラル

協力：CLIP、株式会社ステージフォー

アートディレクション：WALTZ. LLC

*営業時間は変更する場合がございます。また、入場制限を行なう場合がございます。詳細および最新情報は、スパイラルウェブ（www.spiral.co.jp）をご確認ください。

SICF22 EXHIBITION 部門 受賞者展

グランプリアーティスト展と同時開催で SICF22 EXHIBITION 部門の受賞者 9 名が作品を展示します。

参加アーティスト | 柳早苗 (準グランプリ)、寺澤季恵 (準グランプリ)、安永佳織 (大巻伸嗣賞)、み水さん (田中みゆき賞)、西村祐美 (保坂健二郎賞)、野村仁衣那 (MIKIKO 賞)、古屋真美 (スパイラル奨励賞)、門田千明 (ワコールスタディホール京都奨励賞)、銀色なつみ (オーディエンス賞)

会期 : 2022 年 4 月 26 日 (火) - 5 月 1 日 (日) 11:00 - 20:00

会場 : スパイラルガーデン (スパイラル 1F)

入場無料

▪ 出展者一覧



Photo: Tomonori Ozawa

柳早苗 | Sanae YANAGI 準グランプリ

Au fil du temps — 【時のつながりや時代を越えて受け継がれること】を木と紐を使って表現している。Au fil du temps はフランス語で時の流れ、時の重なり、時を越えるという意味の熟語である。Fil は糸、縫う、Temps は時間という単語が含まれている。____柳早苗

埼玉県生まれ。東京造形大学彫刻科卒業。2012 年 - 2015 年 ABA/Glacière (パリ) で直彫りを学ぶ。

2022 「Tagboat Art Fair」 (東京都立産業貿易センター 浜松町館/東京)

2021 「Brillia Art Award 2021」 (東京建物八重洲本社ビル/東京)

グランプリ 受賞

2021 「SICF22 EXHIBITION 部門」 (スパイラルホール/東京)

準グランプリ 受賞

2021 「Tagboat Art Fair」 (東京都立産業貿易センター 浜松町館/東京)

2020 「15th Tagboat Award」 (渋谷ヒカリエ/東京) グランプリ 受賞



寺澤季恵 | Kie TERASAWA 準グランプリ

私の中の混沌とした意識から抽出した、あらゆる事物をコラージュのように造形していぎ、私と私では無い意識を想像しながら生の異界を作り上げていく。私が想像したかった世界も、私の中にあるのかもしれない。____寺澤季恵

1997 年静岡県生まれ。2020 年多摩美術大学工芸学科ガラスプログラム卒業。

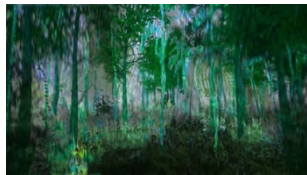
2021 年富山ガラス造形研究所在籍。

2021 「SICF22 EXHIBITION 部門」 (スパイラルホール/東京)

準グランプリ 受賞

2020 多摩美術大学工芸学科卒業制作展「ひとつて」 (スパイラルガーデン/東京)

2019 「glass! glass! Glass!」 (みなとみらいギャラリー/神奈川)



安永佳織 | Kaori YASUNAGA 大巻伸嗣賞

絶えることのない流れの中に身を置く私たちは、過去、現在、未来からくる様々な亡霊に取り憑かれている。____安永佳織

1998年東京都生まれ。2021年ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン（フィルム／アニメーション／ビデオ）卒業。

2021「SICF22 EXHIBITION 部門」（スパイラルホール／東京）

大巻伸嗣賞 受賞

2021「ローマ国際短編映画祭」（イタリア）

2021「ニューヨーク・インディペンデント・シネマ・アワード」（アメリカ）

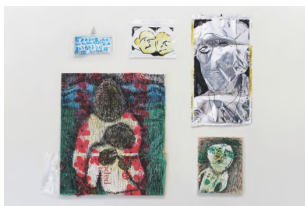
2021「ニューウェーブ短編映画祭」（ドイツ）最優秀アニメーション賞

2021「Kinoreason」（フランス）作品上映

2021「東京国際短編映画祭」（東京都写真美術館／東京）ファイナリスト

2020「イメージフォーラム ヤング・パースペクティブ 2020」（東京）入選

2020「宇野港芸術映画座」（岡山）作品上映予定



み水さん | Mimizusan 田中みゆき賞

私たちの目にはもうなんの価値もないと思って捨てるものは、100年後、1000年後の人達はきっと興味を持って見るものだと思う。昔の人々がどのような生活を送っていたのかを知るための資料として。____み水さん

1995年口サンゼルス生まれ。東京、台北出身。2019年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業。

2021「SICF22 EXHIBITION 部門」（スパイラルホール / 東京）

田中みゆき賞 受賞

2017「independent 台北」（台北松山文創園區/台湾）



西村祐美 | Yumi NISHIMURA 保坂健二郎賞

同じ規格、同じプロセスの作品を繰り返すことで得られる "ミニマル" な側面と、素材の持つ躍動感やそれを扱う人間の手作業などによって生じる "プリミティブ" な側面、対照的にも感じられるその二つの側面について観察・思考し、そのバランスを探る。____西村祐美

1984年福岡県生まれ。2007年多摩美術大学美術学部情報デザイン学科卒業。

2021「Arte Laguna Prize 15 exhibition」（イタリア）ファイナリスト

2021「SICF22 EXHIBITION 部門」（スパイラルホール／東京）

保坂健二郎賞 受賞

2019「Independent Tokyo」（東京）

武石太郎賞・石橋高基賞



野村仁衣那 | Nina NOMURA MIKIKO 賞

身近なプラスチック製品の表面にハンダゴテで穴をあけ、光の細胞をつくることにより素材に生命感を蘇らせ、生活空間におけるモノと人の関係性を静観するインスタレーションを制作している。____野村仁衣那

1993 年東京都生まれ。2021 年桑沢デザイン研究所スペースデザイン科を卒業後、作家活動開始。

2022 個展 (RISE GALLERY/東京)
2021 「SICF22 EXHIBITION 部門」 (スパイラルホール/東京)
MIKIKO 賞 受賞



古屋真美 | Mami FURUYA スパイラル奨励賞

複製された愛着は再び身体を介して躍り出す。あるいは生活の延長線上で当たり前身を潜めている。____古屋真美

1994 年山梨県生まれ。2020 年武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程美術専攻版画コース卒業。

2021 版画工房「LITTLE PRESS STUDIO」オープン。
2021 「SICF22 EXHIBITION 部門」 (スパイラルホール/東京)
スパイラル奨励賞 受賞
2019 「TOKYO MIDTOWN AWARD 2019 アートコンペ」 優秀賞 受賞
2019 「第 44 回全国大学版画展」 優秀賞 受賞

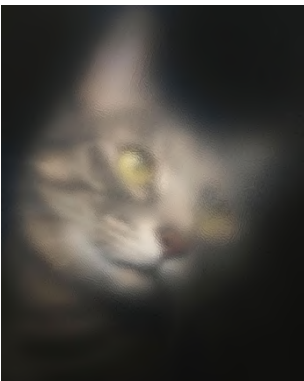


門田千明 | Chiaki KADOTA ワコールスタディホール京都奨励賞

どのような時も美しく在る白樺の木々を彼らのポートレートとして、今回は冬の厳しい自然環境の中に佇む彼らの美しい佇まいを油彩で表現する。____門田千明

1983 年北海道生まれ。服飾大学卒業後、アパレル職を経てイラストレーターを経て 2021 年より表現活動を始める。

2021 「SICF22 EXHIBITION 部門」 (スパイラルホール/東京)
ワコールスタディホール京都奨励賞 受賞



銀色なつみ | Natsumi Giniro オーディエンス賞

視覚は人間の知覚の内の 83%を占めている。見間違いともいえる脳の補完システムは物事の本質を捉え損ねる危険性を含みつつも、私はこの低燃費具合がこの上なく人間らしくて愛おしい特性であるとさえ感じる。____銀色なつみ

石川県生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒業。

2021 「SICF22 EXHIBITION 部門」 (スパイラルホール/東京)
オーディエンス賞 受賞
2019 個展 (uzna omom/東京)
2017 「T3 フォトフェスティバル」 (東京)

SICF22 MARKET 部門 受賞者展

グランプリアーティスト展と同時開催で SICF22 MARKET 部門の4名の受賞者が作り出す魅力あふれる作品／プロダクトを展示販売します。

参加アーティスト | harunasugie (川淵恵理子賞・ベストセールス賞)、古川礼規 (鈴木マサル賞)、中村圭 (林口砂里賞)、ソワ (オーディエンス賞)

会期：2022年4月29日(金・祝) - 5月8日(日) 11:00 - 20:00

会場：エントランス (スパイラル 1F)

入場無料

■ 出展者一覧



harunasugie 川淵恵理子賞・ベストセールス賞

オブジェを身に纏うようなガラスジュエリーを展開。自身が感じている身体や心に関する問題をテーマとしたシリーズを主に発表している。___ harunasugie

1997年愛知県生まれ。2022年武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科ガラス専攻卒業。2022年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻ガラス造形研究室在籍。

2021 「SICF22 MARKET 部門」 (スパイラルガーデン/東京)

川淵恵理子賞・ベストセールス賞 受賞

2021 MIONA SHIMIZU x HARUNA SUGIE EXHIBITION 「透き間」

((PLACE) by method / CIRCLE/東京)

2021 コラボレーション企画 Lautashi x harunasugie

「Lautashi 0007 collection」

2021 「harunasugie POP UP」 (渋谷 PARCO ニュースタア渋谷店/東京)



古川礼規 | Hiroki FURUKAWA 鈴木マサル賞

小さな紙のパーツに紐を通し、紙の側面によって構成されたストラクチャー。紙の側面が滑らかに動くことで PAPER SKIN は色の波を発生させる。そして単なる紙でありながら生き物の肌のような触り心地を与える。___古川礼規

1991年北海道生まれ。2015年多摩美術大学プロダクトデザイン専攻卒業。2018年多摩美術大学プロダクトデザイン研究室副手退任。タイのチェンマイに移住。2020年帰国、現在は東京を拠点に活動中。

2021 「サンスター文房具アイデアコンテスト」 優秀賞 (グループ応募)

2021 「SICF22 MARKET 部門」 (スパイラルガーデン/東京)

鈴木マサル賞 受賞

2020 「DESIGNART TOKYO 2020」 (文喫 /東京) UNDER-30 選出

2020 「Bangkok Design week 2020」 (タイ)

2018 「LEXUS DESIGN AWARD」 ファイナリスト

「Milan Design Week」 (イタリア)



中村圭 | Kei NAKAMURA 林口砂里賞

竹のもつ美しさが伝わるような、シンプルで力強いもの造りを目指して製作している。____中村圭

栃木県生まれ。2017年大分県立竹工芸訓練センター修了、竹工房オンセ高江雅人に師事。2022年 独立。大分県別府市在住。

- ____
- 2021 「工芸都市高岡クラフトコンペティション」
準グランプリ入選 (富山)
 - 2021 「SICF22 MARKET 部門」 (スパイラルガーデン/東京)
林口砂里賞 受賞
 - 2021 「くらしの中の竹工芸展」 別府市議会議長賞 (大分)
 - 2020 「くらしの中の竹工芸展」 MPP 賞 (大分)
 - 2020 「ARTS & CRAFT 静岡手創り市」 (静岡)



ソワ | sower オーディエンス賞

外見の美しさだけでなく内面の美しさを大切にしてきた日本の心をテーマに、アクセサリーやテキスタイル、インテリアアイテムなどを展開する。____ソワ

1986年大阪府生まれ。2010年京都市立芸術大学工芸学科染織専攻卒業。2020年装心具ブランド「ソワ」設立。

- ____
- 2021 「SICF22 MARKET 部門」 (スパイラルガーデン/東京)
オーディエンス賞 受賞
 - 2021 個展「心が芽吹く装心具」展 (iiba GALLERY/神戸)
 - 2021 「Wonder Journal」 (Britomart/ニュージーランド)
 - 2020 「第31回公募2020日本ジュエリー展」入選